

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	駒木おさみ
視察地	北海道登別市
視察年月日	令和5年11月13日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
グリーンスローモビリティを活用した地域公共交通について	
<p>登別温泉は、日本有数の温泉地として知られ 9 つの異なる源泉を保有する温泉デパート。今回視察した環境配慮型の低速電動バス「グリーンスローモビリティ」は 2023 年 3 月より開始の事業。登別温泉地区において通称「オニスロ」として運行開始。「赤鬼号」、「青鬼号」2 台導入。登別市 PR キャラクターは温泉に浸かるかわいらしい赤鬼「登夢くん」。温泉街にある「地獄谷」、「閻魔堂」と鬼を連想できる「オニスロ」も新しい登別旅行体験の充実の一助になり、低迷した観光客を再び集客と同時にサステナブル志向の旅行者増加にも期待を感じると同時に、温泉×SDGS を進め持続可能な観光地づくりに挑戦中。グリーンスローモビリティによる地域活性化を参考とするために視察を行った。</p> <p>グリーンスローモビリティは、グリーントランスフォーメーションへと地域脱炭素の推進へと世界環境の大切な取り組み。全国的にも、観光客の消費拡大や地域活性化を推進するなかで実証実験から導入が進められている。</p> <p>登別市では、導入検討開始から 4 年目で定期運行を開始した。</p> <p>トヨタ・モビリティ基金や国の交付金を活用。</p> <p>登別温泉街は、坂道が多く周遊するための交通手段がなく、高齢者等の外出を阻害する要因となっていた。時速 10km 程度で走行し乗り降りが自由。利用者アンケートでは「遊園地の乗り物みたいと子どもたちが大喜び」、「長期滞在が楽しくなりました」、「久しぶりに活気が戻ってきた」等の意見が寄せられた。</p> <p>令和 4 年度からは、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用した観光 DX の推進、デジタルサイネージでの情報発信で誘客促進。</p> <p>アフターコロナでインバウンドが再び回復している本市においては、中心市街地活性化へと導入を想定したとき、交通人員不足が深刻さを増している現在は国内外観光客向けの案内表示を運行区域内の各所にデジタルサイネージを活用し滞在型観光、外出機会を創出できる工夫も必要と考えます。また通勤や中心市街地の交通手段を躊躇していた市民の利便性向上にも繋がり、流動性から活気と経済効果も期待できる。</p> <p>全世代が親しみやすく乗りたくなる「アサスロ」などの名称募集やデザイン都市旭川らしさが光る車体ペイントなど柔軟な発想で、グリーンスローモビリティ車内に期間限定のスポンサー広告も取り入れるなど、導入を試験的に運用していく価値はあると考えます。ゼロカーボンシティ旭川を前進するためにも SDGS の視点からあらゆる可能性を取り入れ調査研究を進めるべきと考えます。</p>	